



そよ風



発行/大阪市立大学医学部附属病院
良質(QC)医療委員会
〒545-8586
大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
TEL 06-6645-2711
<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/>



芸術で、こころもからだも元気印!

— アートプロジェクトのご紹介 —

良質(QC)医療委員会

知る人ぞ知る! 当院の名物、療養環境改善事業「アートプロジェクト」。2003年度よりプロの芸術家の方々と推進中です。

絵画や彫刻がたくさん飾ってあるの?

いえいえ、そうではありません。病院だからといってアートセラピーでもありません。

「アートプロジェクト」は参加型の芸術活動。あえていうなら「まちづくり」。患者さまやご家族、医療者も事務職員もみんなと一緒に楽しんで元気になる「病院づくり運動」です。

パートナーである芸術家は若手中心に数十名。関西だけでなく関東、そして遠くイタリアからも参加。長期入院が多い小児病棟や一部の成人病棟などで「ワークショップ」を実施します。

「ワークショップ」とは芸術家との共同制作。自主性・主体性を尊重するので、参加は自由。おしゃべりしながら遊びながら、絵を描いたり工作したり、手芸に演奏に歌やダンス…。芸術家と子ども達(患者さま)は互いに刺激を与えながら実を楽しそう。のべ日数にして年間20~50日実施されていますが、この回数はおそらく日本一!

交流から生まれた作品は、外来の展覧会で入院・外来患者さま・ご家族の皆さまに披露します。独特な展示作品に、ときにビックリ! 楽しく、ときに癒され、ときにしんみり、ときに勇気づけられます。



プレイルームで遊ぶ、芸術家と子ども。(写真右)

小児病棟ワークショップ。子ども達と芸術家達の共同作品「テレビ」。ちいさな手のひらがかわいいわね!(写真左)

芸術は魔法の万華鏡。病院の見なれた日常が、思いもよらないステキな風景に変身します。「入院して、もうかった!」といってくる子ども、「待ち時間長くてよかったわ〜」と保護者の方、「車いす生活で外にでられへんから(展示を見られて)うれしい。」と仲のよいご夫婦。芸術はかたくなくて…なんて思わずに、元気印の市大病院アートをぜひ一度、ご賞味あれ!

2008年1月、当院患者さま・ご家族対象に展覧会を開催予定です。乞うご期待! ※詳細は、後日院内にてポスター等でお知らせいたします。

理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します

こころ豊かで信頼される医療人を育成します

医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます

(大病院のめざすところ) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

褥瘡(じょくそう)委員会のご紹介

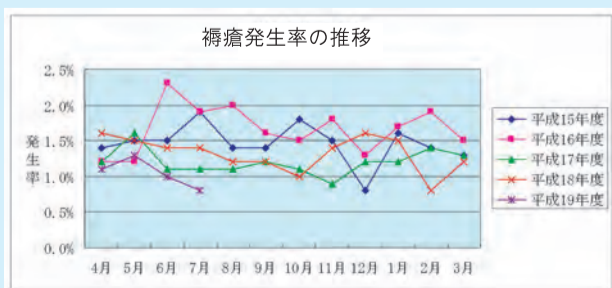
「褥瘡(じょくそう)」とは、一般的には床ずれと呼ばれるものです。褥瘡委員会では、病院内で褥瘡ができないよう、また、やむを得ず褥瘡ができてしまった場合はできるだけ早く治癒するよう、専任医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師及び事務など多職種から成るメンバーがそれぞれの専門性を活かし、様々な対策を立てて取り組んでいます。

2002年8月の褥瘡対策チームの発足に始まる褥瘡委員会は、これまで約5年の活動を続けています。2カ月毎の定例会議では、月毎の褥瘡発生率・有症率・治癒率や体圧分散寝具の整備、各病棟の褥瘡ケア委員への研修など、病院全体の褥瘡対策・褥瘡管理について討議しています。また、褥瘡発生率については、年々減少しており、褥瘡委員会活動での大きな成果と言えます。(下記グラフご参照)

病院ホームページにも褥瘡委員会の活動内容を掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

(病院ホームページ→施設案内→各種委員会→褥瘡委員会
アドレス:<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/facility/jokusou/index.html>)

今後とも「院内褥瘡発生ゼロ・褥瘡の治癒率向上」を目指し、取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。



皮膚・排泄ケア認定看護師について

皮膚・排泄ケア認定看護師は、以前はWOC(創傷・オストミー・失禁)看護認定看護師と呼ばれていましたが、医療関係者だけでなく、患者さまをはじめ一般の方々にもどのような仕事をしているかを広く理解していただけるように、最近、名称が変更されました。海外で同じ資格を持つ看護師達がありますが、現在でもWOCナースと呼ばれています。このWOCの「W」はWound(創傷:きずや床ずれ)、「O」はOstomy(ストーマ:人工肛門や人工膀胱のこと)、「C」はContinence(失禁:便漏れや尿漏れ)を意味し、これらに関する手当を専門とするということです。

実際には、ストーマを造る患者さまには手術前の説明や、ストーマの位置決め、手術後のストーマの手当てを行っています。また、退院後も「ストーマ外来」という専門外来でストーマの手当てや生活全般を含めた長期的な患者さまのご相談に関わっています。また、きずや床ずれの手当てについては、医師、看護師などでつくられた医療チームである褥瘡委員会として院内全体の褥瘡回診を行い、床ずれの手当てや床ずれが起きない様な患者さまにあった方法を考えています。また、その他のきずの手当ても医師をはじめとする医療スタッフと相談し、患者さまのきずを治そうという力を引き出せるような手当ての手助けを行っています。さらに、

失禁ケアでは、便漏れや尿漏れで患者さまが困っている事が解決できるようなお手伝いをしています。

ところで、皮膚・排泄ケアはストーマケアを中心として、段々と皮膚のお手入れや排泄ケアの範囲に広がってきました。ストーマなどの周りの皮膚に行われてきた皮膚を守る方法や、皮膚に起こったきずへの手当で得た知識やわざが、床ずれや広い範囲のきずへの手当や予防に活かされてきたことから、このような仕事を行うことになりました。

きずを持つ多くの病気で皮膚のお手入れは大切です。より詳しい皮膚のお手入れ方法を患者さまに提供するとともに、日ごろの生活でとても大切な排便・排尿のさまたげに対するの苦しみを取り除き、生きる意欲を持てるように、詳しい知識やわざを持って日々の仕事に取り組んでいます。



「ストーマケア外来」で患者さまの「ストーマ」のお手入れをしている様子

診療科紹介 膠原病内科

腎臓病態内科学(膠原病内科)講師 根来伸夫

平素当科をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

当科は昭和47年から膠原病の診療を開始し、平成15年から臓器別診療科名である膠原病内科に改名しました。

膠原病は全身疾患であり、リウマチ、アレルギー、腎臓、呼吸器、循環器、消化器、神経内科などの内科に加えて、皮膚科、眼科、耳鼻科、整形外科、血管外科、脳神経外科、精神科など多数の科の診療が必要なことが多く、各科の協力を仰いでいます。当科の診療範囲は膠原病・リウマチ性疾患のなかで主に内科系領域をカバーしています。

5年前から生物学的製剤の出現に伴ってステロイド発見以来50年ぶりのパラダイム・シフトがこの分野におこり、治療に関する大変革の時期となっています。

1. 膠原病って？

自己免疫疾患は、バセドウ氏病のように単臓器を侵すもの、ならびに全身に免疫異常を引き起こして多数の臓器を侵すものに分類されています。全身に慢性で持続性の炎症を引き起こされた結果、膠原線維が増加し凝固系なども動員されて膠原病に特徴的な炎症組織が出現します。最近では炎症の調節機構が壊れている自己炎症性疾患も発見されています。昨年度は400名以上の新患の方が以下のような疾患で当科を訪れています。

2. 全身性エリテマトーデス：

一般に、顔面紅斑、多発性関節炎、ループス腎炎、漿膜炎などが特徴的な全身性の自己免疫機序による炎症性疾患です。

3. 関節リウマチ：

溶血性連鎖球菌感染の後に、関節炎、発熱、皮膚炎、てんかんなどがおこる疾患を昔からリウマチ熱と呼んでいます。このリウマチ熱に似て多発性の関節炎をおこす慢性関節炎を関節リウマチ(直訳でリウマチ様関節炎)と呼んでいます。

4. 全身性硬化症：

全身の皮膚だけでなく内臓も硬化する難病疾患です。皮膚科が取り扱う強皮症のうち、内臓系に障害されてくるタイプです。

5. 炎症性筋炎：

感染性筋炎などを除いた炎症性筋炎で、多発性筋炎、皮膚筋炎が対象です。肺線維症を起こすこともあり難病疾患です。

6. 血管炎症候群：

血管内または血管の壁に炎症が生じる難病疾患で、感染症以外の免疫関連の疾患を取り扱います。

7. 初診日：

さて、現況は診療医師不足のため混み合っておりご迷惑をお掛けいたしておりますが、初診日は週2回(月・金)で、紹介状をお持ちの上で受診いただければと思います。



こんにちは！市大病院ボランティアです

ボランティア活動ワーキンググループ
ボランティア・コーディネーター 巽花子

外来で、ちょっとおしゃれなエプロンを着て皆様のお手伝いしている、私たちをご存じですか？私たちのグループは、今年2月に生まれたばかりですがアイデアたっぷり！愛情たっぷりの活動で活躍中です。お困りの患者さまはいらっしゃらないか、どんな方とお会いできるのか・・・毎日、新鮮な気持ちでお迎えます。

他にも、アートプロジェクトで芸術家をお手伝いしたり、夏祭りの開催や患者さまと手芸や歌、ダンスを楽しんだり、お庭も作りますし、療養生活に必要なおしゃれ小物も作ります。これ、全部、ボランティアメンバーのアイデアなんです。パートナーである職員さんと一緒に知恵を出しあいながら、協力しあって素敵な病院作りに励んでいます。患者さまから見えなくても、喜んでいただきたときのお顔を想像してワクワクしながら活動しています。

患者さまやご家族と共に時間を過ごし、ほんの束の間ではありますが、笑顔も哀しみも分かち合えたらいいな、と・・・。ボランティアスタッフには、ご自身が

患者さまや患者さまのご家族の方もたくさんいらっしゃいます。仲間—それは私たちの誇りであり、喜びです。健康なときには気付かない、かけがえのない全てを教えてください。

「なぜ、ボランティアするの？」と尋ねられたら、「そこに愛があるから♪」と答えるでしょう！それは、患者さまからの愛、仲間からの愛。色々な形の“愛”を学んでいる気がします。なんだか私たちばかり得しているみたいで、ボランティアがなんなのか益々わからなくなってしまう(笑)。

さいごに。私たちは、やさしい病院づくりを目指しています。“やさしい病院”とは、みんながやさしさを感じられる病院という意味。患者さまと一緒にご家族もボランティアも職員さんも一立場や事情が違って、お互い思いやり、いたわりあい、尊敬しあえる関係ってほっとしますよね。そんな病院にしたいなと思いつつ、毎日活動しています。

これからも私たちをよろしく願います！



このようにかわいい布製おもちゃを作っています。

市民医学講座

医学部教職員が講師を務め、市民のみなさまに様々な病気の診断法・治療法・予防法などの知識を深めていただくとともに、医療現場の現状と課題など、多方面にわたる病気と医療に関する事柄を、わかりやすく解説する市民医学講座を開催しています。

今後の開催予定は以下のとおりです。

【1月開催 第119回講座】

演題 「ただの脂肪肝とっていませんか？
—脂肪肝は肝硬変や肝臓の危険因子—」

講演者 河田 則文 (肝胆膵病態内科学 教授)
開催日時 平成20年1月16日(水) 18時10分～20時

【2月開催 第120回講座】

演題 「自宅でもできる睡眠時無呼吸症候群の検査」

講演者 藤岡 一也 (中央臨床検査部 主査)
開催日時 平成20年2月15日(金) 18時10分～20時

〔申込方法〕

往復葉書に、講座の回数・住所・氏名・フリガナ・年齢・電話番号・返信用宛名を記入してお送りください。ホームページの申込専用ページからも受付しています。

大阪市立大学医学部医学情報センター

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1-2-7

URL : <http://www.msic.med.osaka-cu.ac.jp/>

TEL : 06-6645-2742



病院ボランティアを募集しています！！

◆活動内容◆

- ・外来を中心とした患者さまへの院内案内
- ・車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
- ・縫製作業(点滴着、ストーマ袋等の作成)

◆お問合せ先◆

〒545-8586
大阪市阿倍野区旭町1-5-7
大阪市立大学医学部附属病院
庶務課 忍(しのぶ)・松井
電話:06-6645-2711
FAX:06-6632-7114

大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分
電話 (06)6645-2121(代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

ただし、早期発見・早期治療の観点から一部の診療科では紹介状がなくても受診は可能です。

その場合は初診料とは別に2,620円(助産は2,500円)をお支払いいただきます。

